

仙台地下鉄東西線開業による八木山来訪者の観光行動変化に関する研究

東北工業大学 ○平野 功樹
東北工業大学 正会員 森田 哲夫

1. はじめに

(1) 研究の背景

仙台地下鉄東西線は、八木山動物公園駅から荒井駅を結ぶ路線であり、2015年12月6日開業を目標としている。図-1には、地下鉄東西線の路線図と八木山動物公園駅周辺の観光ポイントを整理した。東西線の開業に伴い、八木山地区への集客が見込めるが、現状のままであると、動物園や遊園地と自宅の往復だけに行動が限定されてしまうことが懸念される。東西線開業を機に、八木山地区の観光資源を活用したまちづくりを進めるためには、開業後の来訪者の観光行動を把握することが必要であると考へた。



図-1 地下鉄東西線路線と八木山地区

(2) 研究の目的

本研究の目的は次の3つである。1)東西線開業前の八木山来訪者の観光行動を把握する。2)地下鉄東西線開業後の観光行動意向を把握する。3)八木山地区に新たなサービスを提供した場合の観光行動を把握する。これにより、東西線開業後の八木山地区の観光まちづくりを検討するための資料とする。

2. 本研究で想定する新サービス

八木山地区に新たなサービスを提供することによ

る観光行動変化を把握するため、料金サービス、体験型観光、映画ロケ地を活用したロケーションリズムの観点から、以下のサービスを設定した。

- a. 料金サービス：八木山動物公園（仙台市営）と地下鉄東西線との相互利用で入園料割引やイクスカのポイントが付くサービス。
- b. 八木山アドベンチャー：竜の口溪谷の自然と環境を活かしたレジャーアトラクションのサービス。
- c. 八木山映画ロケ地めぐり：八木山地区で撮影された映画のロケ地を巡るサービス（八木山橋）。

3. web アンケート調査の概要・項目

八木山地区来訪者、来訪する可能性のある人の情報を広く収集するため、webを活用した調査を行うこととした。調査項目は表-1に示すとおりであり、現在の八木山での観光行動、仙台地下鉄東西線開業後の観光行動、新サービスを提供した後の観光行動、個人属性である。調査期間は、2014年12月～2015年1月であり、有効回収数は174票である。

表-1 web アンケート調査項目

項目	項目
1. 八木山エリアでの観光行動	(1) 八木山エリアへの来訪頻度
	(2) 八木山エリアへ入った時の交通手段
	(3) 八木山エリアでの滞在時間
	(4) 八木山エリアで訪れた場所
2. 仙台地下鉄東西線開業後の観光行動	(1) 地下鉄東西線開業後の八木山エリアへの来訪頻度
	(2) 地下鉄東西線開業後の八木山エリアへ入る時の交通手段
	(3) 地下鉄東西線開業後の八木山エリアでの滞在時間
	(4) 地下鉄東西線開業後の八木山エリアで訪れようと思う場所
3. 仙台地下鉄東西線開業後の八木山エリアの観光行動における新たなサービスについて	(1) 新サービスを提供した場合の八木山エリアへの来訪頻度
	(2) 新サービスを提供した場合の八木山エリアへ入る時の交通手段
	(3) 新サービスを提供した場合の八木山エリアでの滞在時間
	(4) 新サービスを提供した場合の八木山エリアで訪れようと思う場所
	(5) 新サービスの中で一番興味を持ったサービス
4. 個人属性	(1) 性別
	(2) 年齢
	(3) 八木山エリアへの主な同行者数
	(4) 居住地

4. 観光行動変化に関する分析

(1) 東西線開業前の観光行動

回答者の個人属性は、男性64%女性36%、30歳代が47%で約半数を占めていた。60%が友人と訪れており、居住地は県内87%、県外13%である。

キーワード：仙台市，地下鉄，web調査，観光行動

連絡先：〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町35-1 e-mail: ttmorita@tohtech.ac.jp

来訪場所をみると（図-2）、八木山動物公園、八木山ベニーランド、仙台城址が多く、竜の口溪谷、八木山橋は少ない。年齢階層別にみると、10・20歳代、30歳代、40歳代となるにしたがい、八木山動物公園・八木山ベニーランドへの来訪が増え、仙台城址への来訪が減少する。これは、家族連れの子供が増えることによると考えられる。

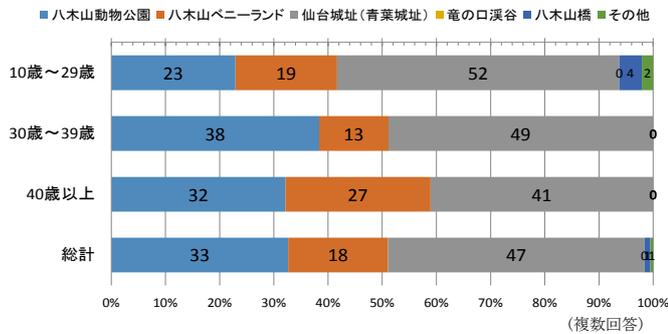


図-2 年齢階層別来訪場所構成比（東西線開業前）

（2）東西線開業後の観光行動

地下鉄東西線開業前後の利用交通手段をみると（図-3）、開業前はバス59%、自動車30%であり、開業後は東西線68%、バス4%、自動車21%となる。バス利用のほとんどが東西線利用に転換し、自動車利用からの転換も予測される。居住地別にみると、開業前にバス利用の多い仙台市居住者の東西線利用への転換が多い。仙台市以外の県内、県外となるにしたがい開業前の自動車利用が多くなり、東西線の利用率は小さくなる。

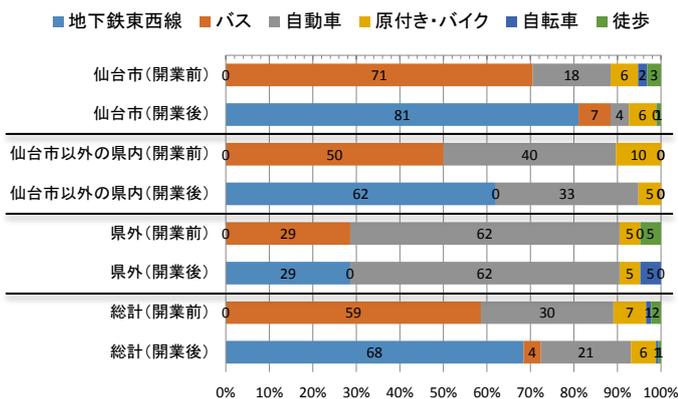


図-3 居住地別利用交通手段分担率（東西線開業前後）

（3）新サービス提供後の観光行動

東西線開業後、新サービスの提供後の来訪場所（回答サンプル数）を図-4に示した。東西線開業により、八木山地区の観光ポイントの来訪者数の合計が22%増加し、特に八木山動物公園への来訪者が増加する。さらに新サービス（料金サービス、アドベンチャー、

映画ロケ地）を提供すると、東西線開業前に対し91%増加する。特に竜の口溪谷（アドベンチャー）、八木山橋（映画ロケ地めぐり）への来訪者が増加する。居住地別にみると、東西線開業による来訪者数の合計の増加率は、仙台市よりも仙台市以外の県内、県外居住者の方が高い。また、新サービスによる来訪者の増加効果は、いずれの居住地においても期待できるものと考えられる。なお、ここでの来訪者数増加は、八木山地区全体の来訪者の増加と周遊観光の増加の2つの効果によるものと考えられる。

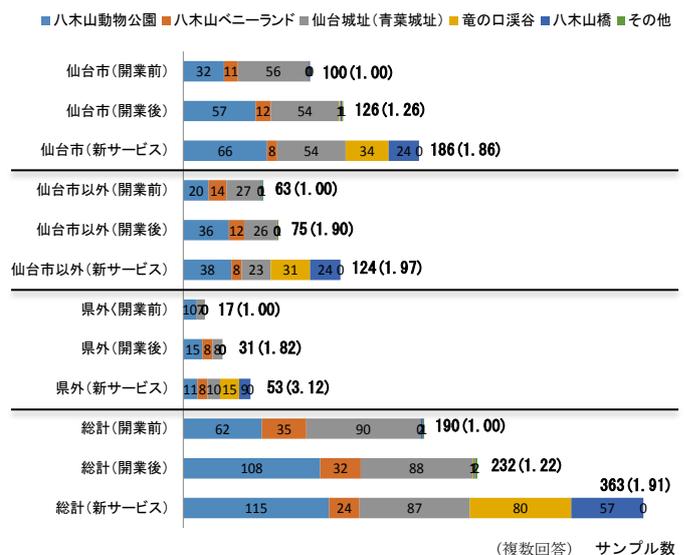


図-4 居住地別来訪場所（開業前後、新サービス）

5. 研究のまとめ

（1）八木山来訪者の観光行動変化に関する考察

本研究の分析により、仙台地下鉄東西線開業、新サービス提供により、開業前の八木山地区の観光行動は大きく変化することが明らかになった。すなわち、来訪者の多くが地下鉄東西線を利用し八木山地区を訪れ、観光ポイントの来訪者の合計も増加する。新サービスについては、料金サービスの内容や水準、アドベンチャー施設やサービスの内容、映画ロケ地めぐりの案内や演出等について具体的に示していないものの、観光ポイントの来訪者数の増加や周遊観光の増加の可能性を示すことができた。

（2）今後の研究課題

本研究を通じた研究課題を2点示す。

- 1) 地下鉄東西線の開業が迫っているため、開業前後の行動変化の実態を把握し、本研究の分析結果の検証をすることが課題である。
- 2) 新サービスの具体的内容・水準を考慮した分析や行動モデルの検討が必要である。